

はしがき

この報告書は、愛知大学人文社会学研究所主催のもと、2018年12月9日に開催されたワークショップ「ネオリベラリズムを再審する——都市・空間・統治——」の記録を収録したものです。本ワークショップの開催意図や経緯は、本報告書掲載の「企画趣旨」（3頁）および「ワークショップの趣旨について」（7頁）、また、第1セッションの問題提起「「危機」以後のネオリベラリズムと都市」（9-18頁）をご覧ください。

本報告書は、当初、ワークショップの開催より間を置かずに編集し公開される予定でしたが、そこに至るまでに4年以上を要してしまいました。編集作業の遅滞につきまして、登壇者の皆様ならびに愛知大学人文社会学研究所の皆様へ、お詫びを申し上げます。

この間に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック、2度の首相交代を挟み、さらにはウクライナでの戦争も始まり、ネオリベラリズムというキーワードが埋め込まれてきた文脈も、この報告書が読まれる文脈も、大きく変わってきました。当日の報告内容についてもまた、各登壇者のその後の研究のなかでさらなる深化・発展がありますが（各報告末尾の付記を参照）、本報告書の編集にあたっては、あくまで2018年のワークショップ開催時の内容をそのまま掲載することを基本方針としました。リーマンショックより10年の節目にあわせて開催されたワークショップの報告書としては、公開のタイミングを失したことは否めませんが、それでも、2018年当時の議論を記録としてまとめ公開することの意義は今なお失われていないと判断しました。本報告書ならびに本ワークショップでの議論が、混迷の度合いを増す現代という時代の診断に何かしら資するものであることを願っています。

* * *

以下に掲載するワークショップの記録は、当日の録音データを文字に起こし、それを再構成したものです。事後的な加筆修正は最小限にとどめ、登壇者の発言をできる限り活かすように努めたことで、かえって論旨の分かりにくくなった箇所もありますが、議論の臨場感を再現することを優先しました。ただし、編集過程で大幅に表現を変更した部分や、報告書への掲載を見送った内容もあることを、お断りしておきます。また目次には、第3セッション（政治/統治）の「質疑応答3」がありませんが、これは個別の報告への質問が出なかったことから掲載を省略したためです。

* * *

ご多忙のなか、本ワークショップでの報告をご快諾くださり本報告書の編集にもご協力くださった登壇者の皆様、また本ワークショップの開催にあたって様々にご支援をいただきました愛知大学人文社会学研究所ならびに愛知大学の皆様へ、心よりお礼を申し上げます。

2023年7月 植田 剛史